

100名の医学士誕生

—第74回卒業式—

春を告げるような強風と雨の中、第74回卒業式に引き続き、医学部学士学位伝達式が3月25日午後3時から吹田キャンパスA講堂にて執り行われ、本年度は百名の新医学士(うち女性16名)が誕生した。その中から、本年度の医学部楠本賞が橘雅弥さんに授与された。

伝達式においては、山西弘一医学部長より一人一人の医学士たちに学位が授与された。山西医学部長は挨拶の中で、現代は外来語が氾濫しており、医療用語もその例外でないが、今は情報開示、インフォームドコンセントの時代であり、外来語を多用した説明では患者さんに十分な理解は得られない、患者さんの立場に立ち、相手に理解できる言葉で説明することが大切である、と心構えを説かれた。また、逆境もプラスに転じることが出来るような力を持った人間になって欲しい、と励ましの言葉を送られた。

次に松田暉病院長より激励の言葉があり、始めに卒業の学年との思い出を語られ、続いてこれからは社会人として、医師として信頼できる人間かどうかという目で見られるのだから、それを心して行動して欲しい。また、皆さんは卒後臨床研修必修化導入前の最後の卒業生であるが、導入前の卒業生として導入後の卒業生の方が優秀である、と言われないように努力して欲しい、と話された。

続いて松本圭史学友会理事長から祝辞が述べられた。御自身の経験として努力しても思い通りの結果がなかなか得られない時もあるという研究者の苦労を語られた。これから研究、臨床、いずれの道を進むとにしても、学内学外に広がる諸先輩が皆さんを迎えてくれるので、その前途は明るく拓けている、と励まされた。また、学友会に新たな仲間を迎えるのは大きな喜びであると述べられ、第74回卒業式を締めくくられた。

最後に、平成14年度山村賞の授与式では、本年度は学部学生から鈴木一博さん、博士課程からは、大学院四年次の川根公樹さんと向永直美さんにその栄誉が贈られた。 以倉 康充(精神医学)



松本理事長(中央)と級会代表の中澤哲郎氏(左)



[戻る](#)